

数字で見る経済

水元 雅巳(みずもとまさみ)

1975年生まれのみずがめ座。大手都市銀行に入行後、「大阪経済の動向に深く関わっている中小企業の実態が知りたい!」との思いを胸に大阪都市経済調査会へ。「数字のことなら何でもお任せ」の頼れる男だが、実はギャンブラー。好きな言葉は「臨機応変、出たとこ勝負」。趣味は釣。

● 1円で会社を設立？ 数字で会社設立を考える

「1円起業」制度利用 1万件突破

(2004年3月20日 日本経済新聞より)

ここ数年で、起業をする人たちへのサポートはかなり充実してきました。そのようなサポートの中にいわゆる「1円起業」制度というものがあります。会社をつくる時には元手となるお金が必要です。法律では、この元手の金額が会社の種類ごとに決められていて、株式会社なら1,000万円以上、有限会社なら300万円以上の元手があることを示したうえでなければ会社の設立ができないようになっています。

「1円企業」制度というのは、この元手についての法律上の制限をなくしたもので、「1円」以上の元手があれば(条件付きではありますが)、会社の設立を認めてもらえるというもの。この制度は、1,000万円や300万円といった起業するための元手を多く集めることができ

ない人でも、会社をつくってしまうのが「ウリ」になっています。

3月の記事によりますと、この「1円起業」制度を利用した会社設立が1万件を超えたとあります。「1円起業」制度は、ベンチャーを志す人たちにかなり利用されるようになったと言えるでしょう。

「資本金」って何？

「1円起業」制度は、会社をつくる際の「資本金」の制限をなくすものですが、「資本」と「資本金」は違うものです。右の図は、会社の「バランスシート」を表したものです。商売をする以上、どのような企業にもバランスシートがあります。突き詰めてしまえば、会社とは、どこからお金を集めてきて、商品を買ったり、事業に必要な機械や建物を買ったりしている組織であるといえます。それを示しているのがバランスシートです。右の図はバランスシート

を簡略化したものですが、左側は会社の資産(買ったもの)を、右側は会社の負債と資本(集めてきたお金)を示します。負債も資本も会社が資産を買うために集めてきたお金のことですが、両者の違いは負債が「返さなければいけないお金」であり資本は「自分のお金」であることです。

「1円起業」制度の「資本金」は、「自分のお金」

である資本のうちの一部のことです。商売の種類や性質によって、返さなければいけないお金(=負債)と自分のお金(=資本)がどれだけ必要かは変わってきます。誰もお金を貸してくれなければ資本を多く集めなければならないでしょうし、みんながお金を貸してくれば資本はほとんど必要ないかもしれません。「資本金」制度とはあ

くまで「これだけの資本は集めましょうね」という規制ですので、「1円起業」を行った人でも自分の事業に必要なお金を負債か資本の形で集めてくる必要があります。

これから「1円起業」制度を使おうと考えている人たちも、「資本金」の必要額とは別に、商売にどれだけのお金が必要かをしっかり考えておく必要があるのです。

■会社のバランスシート

